

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
小学部	(1)	児童一人一人の興味関心や教育的ニーズを把握し、保護者や各種関係機関と連携を図りながら、個に応じた指導の充実に努める。	個別面談や保護者会、毎日の連絡帳などを通し、児童や保護者の教育的ニーズを十分に把握し、医療機関・福祉機関との連絡ノートやケース会議等を有効に活用して連携を図り指導に生かしていく。	1-② 2-② 4-③④		
		個別の教育支援計画や指導計画の作成、学年会・グループ会・合同授業の話し合いなどを通じた教職員の共通理解のもと、個に応じた指導の充実に努める。(教科の内容・系統性を踏まえた指導、教材教具の工夫、実態や課題に応じた学習形態の設定と連携のとれたT・T指導の充実、自立活動メニュー表・ICTの活用など)	1-①② ③④			
	(2)	児童の十分な実態把握のもと、健康や安全に配慮した生活環境の整備に努め、児童の健康や体力の維持・向上に努める。	教室や廊下の整理・整頓、教材室(教材置き場)の安全確認を定期的に行い、危険箇所の早期発見や改善をしていく。学部内でヒヤリハットの情報共有をし、学校事故の防止に努める。	2-①		
		連絡ノートや外部専門家相談の活用、連絡協議会等を通して、保護者や医療機関、各施設や計画相談員等と連携を図りながら、健康で安全な学校生活を送れるようにする。(摂食指導の連携、健康状態の把握、自立活動の指導・緊急時の対応など)	2-①② 4-③④			
	(3)	一人一人の良さを尊重し、豊かな情操を育む教育活動の推進に努める。	児童一人一人を認め、自信や自尊心を育んだり、様々な体験学習を通して経験を増やしたり、感性を引き出したりできるよう、指導方法を探求する。	1-② 4-②		
			各種交流活動や合同学習などを計画的に実施し、人とかかわる力や豊かな心を育成する。(地域交流、学校間交流、居住地校交流、さわやかマナーアップ運動、花いっぱい活動、なかよしタイム(異学年交流)、他学年との合同学習など)	3-①② ③④ 4-②		

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
中学部	(1)	生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握するとともに、個に応じた指導内容や方法を工夫し、授業改善に努める。	生徒の指導・支援方法について共通理解を深め、個に応じた学習や活動を工夫する。 実態に応じた教育課程・グループを編成する。	1-①②		
			系統性を踏まえた学習内容を見直し、ICT機器活用の充実を図る。 より特別な支援を必要とする生徒の支援としてケース会議の活用を図る。	1-③ 4-②		
	(2)	健康で安全・安心な学校生活を送れるように環境を整えながら、健康の維持、体力の向上に努める。	整理・整頓を心がけ、学習や活動しやすい環境整備に努め、事故の未然防止に努める。	2-①		
			保護者や主治医・看護職員・養護教諭との連携を図りながら、一人一人に応じた自立活動を行えるよう工夫する。	1-② 2-②		
	(3)	児童一人一人の良さを認め合い思いやりの心を育みながら、主体的な生活態度の育成に努める。	社会生活のルールやマナーを意識させるとともに、学級活動等で自主的・主体的な活動場面を設定する。	1-④ 3-①		
			遠足、修学旅行、校外学習、交流及び共同学習などにおいて人とのかかわりを深めるとともに、経験を深め広げられるような学習内容・活動の充実を図る。	3-④ 4-②		

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
高等部	(1)	ア	個別面談や相談の中で、生徒一人一人の教育的ニーズや課題を把握し、卒業後の自立と社会参加のため保護者と連携し、個別の教育支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画を策定し支援に努める。	1-①②		
		イ	個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、学年会、学習グループ会等で課題を明確にして、指導内容の整理や支援について共通理解を図る。また、指導にあたってはICTの適切な活用による学習活動の充実と指導力の向上に努める。	1-①②③		
	(2)	ア	教室、グループ室、廊下等の生活環境の整理整頓・清掃を心がけるとともに、教材教具の点検を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	2-①		
		イ	一人一人の生徒の実態を十分に把握し、支援方法についての共通理解を図る。また、保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図ることで、適宜生徒の健康状態を把握し、個や状況に応じた学習や活動を工夫し、健康や体力の維持・増進に努めていく。	2-②		
	(3)	ア	自己選択・自己決定の力を高める指導を重視し、学習場面及び学校生活全体を通して、様々な場の設定をするとともに、主体的に活動する時間を設定していく。また、実生活に結び付く体験学習を通して、成功体験を積み重ねることで、主体的に生きていこうとする態度の育成に努める。	3-①②③④		
		イ	様々な交流活動や集団活動の場の経験を通して、集団生活のルールやマナー、自己と他者とのより良い関係作りを意識できるような内容・活動の充実を図る。	3-①②③④ 4-②		

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
訪問教育	(1)	児童生徒一人一人の実態把握に努め、個に応じた指導のあり方を工夫するとともに日々の学習の充実を図る。	他校と情報交換をしたり、研修会に参加したりすることで、指導内容や教材教具、授業の組み立て方法等について研修し、個別の教育支援計画の実践・改善・充実に努める。	1-①② 3-③		
			複数訪問を行い、児童生徒のより確かな実態を把握し、活動の幅を広げる。	1-①② 3-③		
	(2)	健康や安全に配慮しながら授業を行い、児童生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	表情や呼吸状態、酸素飽和度等を確認・観察し訪問時の体調を的確に把握する。必要に応じて毎日の健康観察の様子を記録しておく。	1-①② 2-①②③		
			その日の体調に応じて授業内容を組み立てる等臨機応変に対応する。	1-①② 2-①②		
	(3)	所属学部学年との連携を図り、共通理解のもとでスクーリングや映像での交流を行い、友だちや集団を意識できるよう努める。	学部会等で訪問教育生の実態や近況報告・連絡・相談をし、理解を深める。	2-①② 3-③ 4-④		
			学年やグループへのスクーリング参加については事前に所属学年と密に連携を図りながら、訪問生と通学生がかかわりをもてるような内容にするために十分な打ち合わせを行う。また、無理のない活動を実施する。	2-①② 3-③		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	ア 児童一人一人の興味関心や教育的ニーズを把握し、保護者や各種関係機関と連携を図りながら、個に応じた指導の充実に努める。	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTを積極的に活用し教育活動に取り組む。	1-①②③		
		イ 各グループ・学年の学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	1-②④			
	(2)	児童の十分な実態把握のもと、健康や安全に配慮した生活環境の整備に努め、児童の健康や体力の維持・向上に努める。	ア 登校時に検温・パルス測定や表情の観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活を送れるようにする。	2-②		
			イ 保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアについては、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②		
			ウ 児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度、安全面に配慮するなどの教室環境を整え、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	2-①②③		
	(3)	一人一人の良さを尊重し、豊かな情操を育む教育活動の推進に努める。	ア あいさつや呼名等、身近な人を意識できるように友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、新しい場所や人とかかわりに慣れるよう、異学年、異グループでの学習場面を設定する。	3-③④		
			イ 人とかかわりの基礎を養い、集団生活におけるルールやマナーを身に付けることができるように支援する。	3-③④		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
2年	(1)	児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTの活用(PCやタブレット端末等)による教育活動を図る。	1-①②③		
			各グループ・学年の学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	1-②④		
	(2)	学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な生活を送ることができるようにする。	登校時に検温・パルス測定や表情の観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や排せつや睡眠等の生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活が送れるようにする。	2-②		
			保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアや緊急時の対応については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②		
			児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	2-①②③		
	(3)	友だちや教師等、人とかかわりを大切にしながら、集団活動に慣れ、コミュニケーションの基礎を養う。	朝の会やレクリエーション等で身近な人を意識できるように友だちや教師とかかわりの場面を多く設定する。また、なかよしタイムやグループ学習等、異学年、異グループでの学習場面を設定する。	3-③④		
気持ちや要求を自ら表現したり、伝えたりできるように、教材教具や支援の方法の工夫をする。また、集団生活におけるルールやマナーを身に付けることができるように支援する。			3-③④			

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
3年	(1) 児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	ア 個別の教育支援計画・指導計画、年間指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた指導・支援を実践する。ICTを活用した学習活動を実践する。	1-①②③ 3-①⑤			
		イ 学年会やグループ会で児童の学習の経過や成果について情報交換し、支援・指導の方法について共通理解を図る。また、共通の記録方法を用いて児童の学習評価を行い、個々の目標達成や課題解決に向けた支援・指導を実践する。	1-②			
	(2) 保護者や関係機関との連携を図りながら、学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	ア 登校時に連絡帳や保護者から体調を聞き取ったり検温やパルス計測、表情の観察をしたりして、児童の体調を十分に把握する。	2-②			B
		イ 保護者や医療・福祉等の関係機関と連携ツールを積極的に活用して連携を図りながら、児童の心身の様子を把握し、健康の保持増進に努めていく。また、医療的ケアや緊急時の対応については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるようにしていく。	2-①② 4-④			
		ウ 児童が健康・安全に過ごせるように室内の温度や湿度等の調整をしたり、教室備品の整理整頓を心がけたりして、健康に安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②③			
	(3) 集団生活の中での人とのかかわりを大切にしながら、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。	ア あいさつや呼名、ふれあい遊び等とおして身近な人を意識できるように、友だちや教師とかかわる場面を多く設定する。また、なかよしタイムをはじめとした他学年の児童や教師などと交流する学習場面も設定する。	1-② 3-①④ 4-②			
イ 友だちや教師とかかわりながら、感じたことを表出したり、自分の気持ちを表したりできるよう、発声や身振りを促す支援をする。また、教材・教具の工夫やICTを活用しながら、教師が手本を示して自分の気持ちを表現したり相手の気持ちを受け止めたりできるよう支援する。		1-①②③				

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
4年	(1)	児童一人一人の実態や障害特性を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。また、個別面談時には個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。	1-①②③ ④ 4-④		
			学年会やグループ会で児童の学習の経過や結果、変化について情報交換をし、支援方法等の共通理解を図る。また、記録表の工夫を図り、学習の記録を行う。	1-①②③ 2-②		
	(2)	保護者や関係機関との連携を図り健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	保護者や寄宿舎との連携を密にし、連絡帳や登校時の聞き取り等で児童の体調を確認したり、検温や酸素飽和度の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握する。	1-④ 2-①②		
			連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体や健康の様子を把握する。また、医療的ケアや座薬の挿入等については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	1-②④ 2-①② 4-④		
			児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②③		
	(3)	集団生活の中での人とのかかわりを大切にし、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。	友だちや教師を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるよう、あいさつや呼名、手遊び歌やふれあい遊び等の、人とのかかわりの場面を多く設定する。また、なかよしタイムで他学年の教師や友だちとのかかわりをもち、交流の充実を図る。	1-② 3-①②③ ④ 4-②		
興味・関心のある教材・教具のやりとり等、友だちや教師とかかわる場面を設定する。教材・教具の工夫やICTの活用をし、発声や身振りを促す支援をする。			1-②③ 3-①②③ ④⑤			

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
5年	(1) 児童一人一人の実態や障害特性を適切に把握し、個に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	ア 複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。また、個別面談時には個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。	1-①② 2-②		
		イ 学年会やグループ会、合同授業の話し合いで児童の学習の経過や変化について情報交換をし、支援方法等の共通理解を図る。また、学習の記録を行い、共通理解に活用する。	1-①②③		
	(2) 保護者や関係機関との連携を図り、健康や安全に配慮し、学校生活を送ることができるようにする。	ア 健康で安全に過ごせるように、連絡帳や登校時の聞き取り等で児童の体調を確認する。検温や酸素飽和度の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握する。	2-①②		
		イ 連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体や健康の様子を把握する。また、医療的ケアや坐薬の挿入等については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して円滑に行えるよう進めていく。	2-①②		
		ウ 児童が健康・安全に過ごせるように教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、事故防止に努め、安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②		
	(3) 集団生活の中での人とかかわりを大切に、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を培う。	ア 集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるよう、個に応じた丁寧なかかわりを行う。学級活動やⅡ課程Ⅲ課程合同授業を設定する。また、なかよしタイムや学部の行事等において、他学年の友だちや教師とかかわりの場面を設定する。	3-①②③ ④ 4-②		
イ 写真や絵カードや具体物等を活用し自己選択したり、興味・関心のある教材・教具を活用してのやりやりとりをする場面を設定する。また、音声教材やタブレットなども有効的に活用していく。		1-②③ 3-①③			

小学部[学年, 教科・領域] ※評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

6年	(1)	児童一人一人の障害の特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や集団学習の充実に努める。	ア	複数の教員による情報収集, 多面的な実態把握に努め, 個に応じた教材, 教具の工夫, 学習環境の整備を行う。	1-①②③ 2-②			
		イ	学習の経過や変化について, 記録を基に学年会やグループ会で話し合い, 支援方法について共通理解を図り学年の教員全員で支援できるようにする。	1-①② 2-①②				
		ウ	個別面談時には, 保護者に学校での様子を写真や動画を活用しながら説明することで, 個別の教育支援計画, 指導計画について共通理解を図る。	1-①② 2-②				
	(2)	保護者や関係機関との連携を図り, 健康や安全に配慮し, 児童の実態に応じた生活習慣の確立を図る。	ア	体調や生活上の変化について保護者との連携を密にし, 健康で安全な学校生活が送れるようにする。	2-①②			
			イ	外部専門家や連絡ノートを活用を通して, 保護者, 関係機関との情報交換を行い, 共通理解を図り, 指導内容, 支援方法の充実に努める。	1-①②③ 2-①② 4-④			
	(3)	集団活動の中で人とのかかわりを大切にし, コミュニケーション力を高めることができるようにする。	ア	学級活動やなかよしタイム等において, 友だちとかかわる場面を多く設定し, 集団を意識したり, 自分の気持ちを伝えたりすることができるように支援する。	3-①③④			
			イ	活動を予測したり, 期待をもたせたりするために, 手がかりとなるもの(絵カード・音声言語・動き・感触等)を検討し, 意図的に活用する。	1-①②			
			ウ	具体物, 写真, 絵カードやスイッチ, タブレット等のICT機器を活用して, 児童が自己選択できるようにする。また, 表情や発声, 視線, 動作での意思表出を教師が相手に伝えたりすることで, 楽しくコミュニケーションをとることができるように支援する。	1-①②③ 3-①③			

各教科の指導	I	(1)	児童一人一人の実態に即した授業内容・展開を工夫したり、教材・教具を用意したりして、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	ア	児童の実態を的確に把握し、体験的な活動を取り入れた学習の機会を多く設ける。また異グループ合同で学習する時間を設定し、他者とのかかわり方を学び、身につけられるようにする。	1-①②		
			イ	基礎基本の定着を図るため、プリント、ドリル学習などで繰り返し学習できるようにする。また、学校図書やICT機器を利用した学習を多く行う。	1-②③ 3-⑤			
			ウ	定期的に学習の習熟度を確認し、既習内容の復習を行う。	1-②			
	(2)	安全な学校生活を送るとともに、体力の向上と身の自立を図る。	ア	体育や自立活動を通して、健康の維持・増進に努める。	2-②			
			イ	体育や自立活動において、体力の向上や身の自立のための動きの習得や、身体を動かす仕組みについての理解を深める場面を設ける。	1-①② 2-②			
	II	(1)	体験的な活動や様々な学習活動を通して、生活に必要な知識や技能を身につけ、自ら考え行動する力を育てる。	ア	児童の実態や学習到達度に合わせ、学習内容を選定したり学習時期の調整を行ったりするなど教科の系統性や領域を考慮しながら、体験的な活動を取り入れたり教材・教具を工夫したりする。	1-①②③ 2-①② 3-①③④ ⑤		
				イ	自立活動や他の教科と関連付けたり、定期的にグループ会を持ち教職員の共通理解を図ったりすることで、児童の実態に応じて計画的に学習活動を行う。	1-①②③ ④ 2-①②		
		(2)	あいさつや返事など基本的な生活習慣を確立するとともに、周りの人とやりとりする力を培う。	ア	学校生活全般において、友だちや教師、保護者、来校者の方々とのあいさつを交わす場を大切にするとともに、学習場面や合同生活単元学習等においても、多くの人とかわることができるように、異学年との交流を定期的に設定する。	1-②④ 3-①③④		
				イ	児童の実態に応じて、サインや写真、ICT機器、絵カード、シンボルマーク等を活用し、繰り返し学習することで定着を図っていく。	1-①②③ ④		
	III	(1)	体験的な活動を通して、興味関心の幅を広げるとともに、人のかかわりを大切にしながら、気持ちを表現する力を伸ばすなど、個に応じた支援の充実を図る。	ア	様々な体験的な活動を設定するとともに、児童の実態を的確に把握して教材・教具を用意し、提示の仕方を工夫する。	1-① 1-②		
				イ	気持ちを表した際には、共感するような言葉をかける。また、必要に応じて他学年との交流や合同授業を設定する。	1-①		
		(2)	家庭や医療機関等と連携を深め、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	ア	こまめに健康観察を行い、教師間で情報を共有して、適切な対応を行う。	2-① 2-②		
イ	連絡帳や連絡ノートを通して家庭や医療機関との連携を図り、健康で安全な教育活動を行う。	2-②						

小学部[学年, 教科・領域] ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
特別の教科 「道徳」	(1)	学校の教育活動全体を通じて、道徳的価値(人間らしさ)の自覚を深め、自分の生き方について考えとともに人間としてよりよく生きていくための道徳的実践力を育む。	道徳的価値の自覚を深めるため、児童の実態や発達、特性に応じ、魅力的で身近な題材を取り入れられたり、自己を見つめる機会を作ったりするなど、教材や場面設定の工夫をする。	1-② 3-③		
		道徳の時間の指導にあたっては、児童が自分への問いかけを深め、自分の未来や希望をもつことができるように、話し合い活動や体験的な活動を多く取り入れるようにする。	1-② 3-③			
特別活動	(1)	集団生活を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としての意識をもちながら、自分の役割を果たそうとする自主的、実践的な態度を育てる。	学級活動や専門委員会などの活動において、一人一人の実態や希望に応じて、活動内容や役割を設定し、主体的に活動に取り組めるように支援する。	3-①④		
		専門委員会や学部行事など、他学年との集団活動の場を積極的に設け、お互いの存在や良さに気付いたり、自分の役割や係の仕事を自主的に行ったりしようとする態度を養っていく。	3-①③			
自立活動	(1)	関係機関と連携し、外部専門家相談や文書等での情報交換をし、適切で根拠ある自立活動の指導の充実を図る。	「自立活動を行うにあたって」や「連絡ノート」など、医療機関からの情報を得るツールを保護者との共通理解のもとに活用し、医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換を密に行う。個別の指導計画や個々の自立活動メニューの目標や課題の共有を図ったり、振り返りの機会を設けたりする。	1-①② 4-①②④		
		各児童生徒の担当セラピスト等の関係機関との連携を図りながら、必要に応じて、外部専門家(PT, OT, ST)相談を活用し研修を深め、指導の充実に努める。	1-①② 4-①②④			
総合的な学習の時間	(1)	学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。	各教科と関連づけながら、様々な体験活動を取り入れられたり、友だち・教師、地域の人とのかかわる場を設定する。	1-②③ 3-① 4-②		
		問題の解決や探究活動にあたっては、図書室の活用やタブレット端末等の情報機器を活用し、自分で調べてまとめることができるよう環境を設定していく。	1-③ 3-⑤			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	生徒の実態や障害の特性, 教育的ニーズを的確に把握するとともに, 個別の教育支援計画及び指導計画に基づき, 個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し, 授業改善に努める。	ア 一人一人の障害の特性や実態, 教育的ニーズを把握し, 必要に応じて保護者や関係機関と連携を図りながら, 個別の教育支援計画・指導計画を作成し, 個に応じた指導・支援に生かす。	1-①② 2-② 3-①②③		
		イ 生徒一人一人の指導・支援内容について, 連絡帳や連絡ノート等を活用して, 保護者や関係機関と共通理解を図り, 適切な指導・支援の在り方について連携・確認を取りながら進める。	1-①② 2-② 3-①②③			
		ウ 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら, 日々の授業実践の工夫・改善に努める。(略案の工夫, RPD CAサイクル, 合理的配慮, ICTの活用, T・T指導の充実, 教材の工夫, 専門性の向上)	1-①②③ 2-② 3-③⑤			
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えるとともに, 健康の維持, 体力の向上に努め情緒の安定を図る。	ア 生徒の健康状態や体調の変化について, 連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り, 必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持に努める。	1-② 2-①②		
			イ 連絡ノートや外部専門家を活用し, 医療機関との連携を図りながら, 一人一人の障害の特性や実態を把握し, 指導上配慮すべき点, 健康の維持, 情緒の安定, 自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-② 2-①② 4-④		
			ウ 教室や学習室, 廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い, 生徒が活動しやすい配置や整理整頓に努めるとともに, 事故防止のための車いす操作や教室内での移動等, 危険回避の方法の支援指導を行う。	2-①②③ ④		
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気付き, 他者とのかかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに, 社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	ア 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし, 互いの良さに気付き, 思いやりをもって活動に取り組める場面を設定する。	1-② 3-①②③ 4-①②		
			イ 進路や福祉関係の情報を教員間で共有し, 保護者への情報提供に努めるとともに, 人のかかわりを広げ, 多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し, 支援する。(遠足, 校外学習, 交流及び共同学習など)	1-② 3-①②③ ④ 4-①②④		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
2年	(1)	生徒の実態や障害の特性、教育的ニーズを的確に把握するとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。	ア 一人一人の障害の特性や実態、教育的ニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に生かす。	1-①② 2-②		
		イ 生徒一人一人の特性に応じた指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や関係機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について職員間で共通理解をしながら進める。	1-①②③ 2-② 3-①			
		ウ 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら、日々の授業実践の工夫・改善をする。(略案作成、RPDCAサイクル、合理的配慮、教材・教具の工夫、ICTの活用、T・Tの充実、支援の在り方)	1-②③			
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上、情緒の安定に努める。	ア 生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り、必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持や情緒の安定に努める。	1-②④ 2-①②③		
			イ 医療相談を行ったり、外部専門家を活用したりしながら、医療機関等との連携を図り、一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-①② 4-①③④		
			ウ 教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努めるとともに、車いすや歩行等自力で移動する際の危険回避の方法を理解して生活できるように支援指導を行う。	1-①② 2-①②		
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気づき、他者とのかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに、個に応じた社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	ア 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、互いの良さに気づき協力して活動に取り組める場面を設定する。	3-①②③ ④⑤		
			イ 進路指導係と連携し、進路や福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努めるとともに、人のかかわりを広げ、多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し、支援する。(遠足、校外学習、交流及び共同学習など)	1-② 4-①②④		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
3年	(1)	ア 生徒の実態や障害の特性、教育的ニーズを的確に把握するとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。	障害の特性や実態、教育的ニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に生かす。	1-①② 2-② 4-④		
		イ 生徒一人一人の特性に応じた指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や関係機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について職員間で共通理解をしながら進める。	1-①②③ 2-② 3-⑤			
		ウ 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら、生徒のニーズに合った授業実践の工夫・改善をする。(ICTの活用など)	1-②③			
	(2)	ア 生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り、必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図り、安全な学校生活と健康の維持に努める。	1-②④ 2-② 3-③		
		イ 連絡ノートや外部専門家を活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点、健康の維持、体力の向上、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-①② 4-④			
		ウ 教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努め、ヒヤリハット報告・検討を行い危険・事故防止に努める。	1-① 2-①②			
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気付き、他者とのかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに、個に応じた社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	ア 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、適切な意思表示をすることができる場面を設定する。	3-①②③ ④⑤		
			イ 進路指導係と連携し、進路や福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努めるとともに、進路について考える機会を設定する。	1-①② 4-①		
			ウ 人とのかわりを広げ、多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し、支援する。(遠足、校外学習、交流及び共同学習、地域活動など)	4-②④		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連				
各教科の指導	I	(1) 各教科の学習において、基礎・基本的な内容の確実な定着を図る。	ア	年度初めに、担当者間で評価基準や生徒の実態について共通理解を図る。進捗や理解度、指導方法は学部会や学年会及び適宜開かれるI課程会を通じ指導の充実を図る。	1-①②③			
			イ	各教科、授業時数の確保に努める。	1-②			
			ウ	定期的に小テストなどを実施したり、達成段階に応じた課題を出したりして、生徒の理解度や達成度を常に把握し、指導方法の見直しや改善を図る。	1-②③			
	(2) 個々のニーズに応じた進路選択が行えるよう、適切な進路指導を行う。	ア	道徳の時間に、自己を振り返ったり見つめたりする時間を設けることで自己理解を深めるとともに、学期に数回程度、I課程全員で話し合う時間を設け、考えや価値観を深められるようにする。	1-② 3-③				
		イ	「進路を考える週間」では、生徒の実態に応じた職業トレーニング体験を取り入れ、働くことについて考えられるようにする。また、高等部の実習報告会を参観し、高等部の進路学習のイメージをもてるようにする。	1-② 4-②				
		ウ	人とのかわりを多くもつことができるよう、行事的活動などでは普段と異なる集団での活動機会を設けるようにする。	3-①②④ 4-②				
	II	(1) 日常生活の中で必要となる課題に対して、基礎的・基本的な学習に系統的に取り組むことで、日常生活に生かせる知識の習得や技能の定着を図る。	ア	身振り手振りや指文字、ICT機器の活用など個々に必要とされる課題に継続的に取り組むことにより、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	1-①②③ 3-①			
			イ	教科ごとに指導者をほぼ固定し、各教科の指導者同士で連携を図ったり、学習の記録を生かしたりして、課題内容や支援方法を精選し、個人の実態に合わせた知識・技能の定着を図る。	1-①② 3-②			
	(2) 自分の意見を発表したり、人の意見を聞いたりする経験を通して、場に応じた適切なコミュニケーション能力を身につける。	ア	学習内容に応じて柔軟なグループ編成を行い、生徒間で意見を交換したり自分の考えを発表したりする機会を多く設定し、コミュニケーション能力を高めるようにする。	1-①② 4-①				
		イ	グループ会等を利用して、教員間で生徒の実態について共通理解をし、生徒の身振り手振りや指文字および言葉や思いをできるだけ正確に読み取るように努める。	1-①② 3-①				

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	Ⅲ	(1)	生活のリズムを整えながら、健康の維持・増進を図る。	ア 検温、酸素飽和度、脈拍、表情などの健康観察を十分に行い、体調の管理・維持に努める。また、家庭や養護教諭、看護職員と情報を共有し、さらに学部会等で連携を図りながら適切に対応する。	1-① 2-①		
			イ 外部専門家相談及び連絡ノートや医療相談などを活用して医療機関との連携を図り、自立活動や日常生活全般において個々の実態に合わせた身体機能の維持・増進に努める。	1-① 2-① 4-④			
	(2)	人とのかかわりや、様々な学習活動を通して、感情や意思の表出を促す。	ア 個々の生徒の実態や学習に取り組みやすい環境、教材・教具の提示方法などの支援方法について共通理解を図ることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	1-②③ 2-①			
			イ 五感を刺激する活動や運動、音楽を多く取り入れるなど活動を工夫することで、興味・関心の幅を広げるとともに、快・不快等の自発的な表出を促すために、支援の方法や教材・教具の工夫をする。	1-②③ 2-①			
			ウ 他者とのかかわる場面の設定や学習内容、学習形態を工夫する。	1-② 2-①			
	特別の教科「道徳」	(1)	生徒の実態を踏まえ、特別の教科「道徳」の時間を主要としながら、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度などの道徳性を養う。	ア エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの手法等を取り入れ、体験的に感じ取り、学び合えるような機会を設定する。	1-② 2-② 3-①②③ ④		
イ 学校生活を通して、道徳的価値について考えを深めたり、意見交換したりできるようにする。				1-② 2-② 3-③			
(2)		各教科、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を図りながら、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的实践力を育成する。	ア 学校行事での様々な生活経験を通して、生徒の多様な活動場面をとらえ、「相手を尊重する」、「礼儀やマナーを理解する」、「社会の一員としての役割と責任を自覚し、ルールを守る」等の道徳的実践力を育成できるようにする。	1-② 2-② 3-①②③ ④⑤ 4-②			
			イ 地域交流や学校間交流、児童生徒会活動等を通して、社会の一員としての自覚を深めるとともに、自分の役割を考えたり、振り返ったりできる機会を設定する。	1-② 2-② 3-①②③ ④⑤ 4-②			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
特別活動	(1) 集団活動を通して、集団の一員として、協力して活動を行う。	ア 専門委員会や全校集会、学年・学級の活動を通して、他学部や他学年の児童生徒等、様々な人と一緒に活動場面を精選して設定し、各学年、グループで協力して行えるように支援する。	1-② 3-④		
		イ 話し合い活動や選択の場面を取り入れたり、生徒の実態に応じたコミュニケーション方法を工夫したりすることで、積極的に他者とかがわることができるようにする。	1-②③		
	(2) 様々な人たちとの交流を通して、社会性や協調性を育む。	ア 中学部において、交流活動を行う機会を積極的に設定し、実施団体と連携して計画をたて、円滑に行えるようにする。	3-①④ 4-②		
		イ 様々な人とコミュニケーションを図ることができるよう、生徒の実態に応じた参加方法や交流の場の設定、コミュニケーション方法を工夫する。	1-②③ 3-①④ 4-②		
自立活動	(1) 関係機関との連携を深め、根拠に基づいた指導の充実を図る。	ア 連絡ノートを活用して、医療関係者(Dr,PT,OT,ST等)と情報交換や目標の共有を図り、個々の課題解決や指導、自立活動メニューの充実に努める。	1-①② 2-②		
		イ 生徒のニーズを把握し、自立活動相談、小児リハビリテーションネットワーク会議のケース会議等を活用して関係機関との連携を図り、指導の充実に努める。	1-①② 2-②		
	(2) 肢体不自由特別支援学校の教職員としての専門性を高め、自立活動の長期的指導の充実を図る。	ア 外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を学年や学習グループ等で共有し、個々の課題・実態に合わせた自立活動や日常生活の指導や授業の改善・充実に努める。	1-①② 2-②		
総合的な学習の時間	(1) 総合的な学習の時間の指導計画の改善・充実に努める。	ア 各教科や道徳と関連付けながら、発達段階や系統性を意識した内容を精選し、指導・計画・授業実践に努める。	1-② 2-②		
	(2) 協働的な活動や探究的な活動を通して自己の生き方を考える学習となるよう内容の充実に努める。	ア 学校間交流や花いっぱい活動等を通して、同年代の中学生や地域の方と積極的にふれあい、社会性を身につけられるようにする。	3-① 4-②		
		イ 進路を見据えた活動や体験的な学習を設定し、活動を通して自己理解を深め、将来の進路について自ら学び考える態度を育てる。	1-② 4-④		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確にふまえ、学習内容、指導方法の工夫・改善を図る。	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	1-②③		
			学習活動、自立活動の指導においては、より実態に応じた指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。また、生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り、手立ての工夫・充実を図る。	1-②		
	(2)	健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、体力と身体機能の維持・向上を図るとともに、自己肯定感を育み他者を思いやる豊かな心の育成に努める。	教室、グループ室、廊下などの生活環境の整理整頓や清掃を心がけ、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	2-②		
			保護者や関係諸機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。	2-①②		
			他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	3-①②③④		
	(3)	生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で解決できるよう取り組み方と手立てを考えていく。	1-②		
生徒の実態に応じた、就労や福祉施設等の情報提供を行うことにより、実態に合った進路想定を導けるように努める。			1-②			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
2年	(1)	ア	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し, 個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	1-①②		
		イ	学習活動, 自立活動の指導においては, 実態に応じた内容と指導方法を工夫し, 授業の改善に努める。また, 生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り, 効果的な支援が行えるようにする。	1-①②③		
	(2)	ア	保護者や関係機関との連携のもと, 学校生活における健康・安全面の問題を明確にし, 体力と身体機能の維持・向上に努める。生徒の健康状態を把握するため, 必要に応じてバイタルチェックをして健康管理の意識を高める。	2-①②		
		イ	生徒の視点に配慮し, 教室, グループ室, 廊下などの掲示物や整理整頓及び清潔を心がけ, 安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努めるとともに生徒への清潔意識の向上に努める。	2-①②③		
		ウ	生徒同士でかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え, 自己選択, 自己決定できるような場面を設定する。	1-①②③ 3-①④		
	(3)	ア	生徒, 保護者のニーズを確認しながら, 進路指導上の課題を明らかにし, その課題を進路体験実習, 作業学習, その他の学習の中で達成できるような具体的な取り組み方と手立てを考えていく。	1-② 2-② 4-④		
イ		生徒の実態に応じた福祉サービスの活用を促したり, 福祉施設等の情報提供を行ったりすることで, 実態に合った進路想定に導けるように努める。	1-①② 4-③④			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
3年	(1) 将来の生活を踏まえ、自立や社会参加を図るために指導内容を検討し、進路指導に関する支援の充実を図る。	ア 生徒、保護者のニーズを確認しながら個別の指導計画を作成し、自立や社会参加に向けて身に付けたい力を明確にする。進路体験実習を適切に実施し、必要に応じて進路面談などを行い、進路決定ができるようにする。	1-②		
		イ 生徒一人一人の目標達成に向け、指導内容や方法について探求し、教員間の共通理解のもとでキャリア教育の充実を図る。	1-①②		
	(2) 健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	ア 生徒、保護者のニーズや意見を反映させながら、個別の教育支援計画を作成し、個に応じた指導、手立ての充実を図る。日常の観察などを通して一人一人の実態を的確に把握して指導にあたる。	1-①② 2-①②		
		イ 保護者や関係機関と連携を図りながら、一人一人の障害特性や実態把握を行い、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定などについて教員間で共通理解するとともに、より実態に即した指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。	1-①② 2-②		
	(3) 自己肯定感を育み、他者とのかわりを楽しむ豊かな心の育成を図る。	ア 学校生活において、生徒の実態に応じた支援を行うことで成功体験を積み重ね、主体的に生きようとする意欲を持たせ、自己選択・自己決定できるような場面を設定する。	1-①② 2-②		
		イ 学級活動や交流、体育祭などとおして他者とかかわりをもてる機会を設定し、学年の一員として各自がもてる力を発揮できるよう促す。	3-①②④ ⑤		

評価項目		具体的目標		具体的方策		重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
各教科の指導	I	(1)	一人一人の進路適性を的確に把握し、個別の進路課題に応じた進路指導に努める。	A	生徒や保護者の進路希望を尊重し、進路指導部や関係機関との連携を図りながら、進路に関する情報提供を行う。また、生徒一人一人の進路課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が課題を意識しながら主体的に進路選択できるように支援する。	1-①②		
				I	教科担当職員の連携を図り、個々の実態に応じた支援の充実に努める。また、ICTを適切に活用して学習の支援方法を工夫し、基礎学力の向上に努める。	1-②③		
		(2)	健康・安全に留意し、一人一人の主体的な活動を大切にしながら、充実した学校生活を送れるようにする。	A	豊かな生活が送れるよう自分の健康管理に留意するとともに、行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促す。	2-①② 3-①②③ ④		
	II	(1)	自立生活や社会参加をするために必要な知識・技能や態度を身につけられるよう、アクティブラーニングを取り入れた学習の展開を図る。	A	卒業後の自立と社会参加に向け、高等部で身につけたい力から指導内容を検討し、内容の精選、実態に合った改善をしながら学期を超えて各教科や単元の関連性を持たせた体験的・かつ実践的な指導内容の厳選や授業改善を図る。	1-①②		
				I	他グループと連携を図りながら、話し合いや他者とのかかわり、自己決定する場、自分の気持ちの表出等実践的な場面を多く設定したり、繰り返し学習を行ったりすることで定着を図る。	1-②		
				ウ	場に応じた言葉遣いを身につけるためにロールプレイを多く設定する。また、簡単なサインをや身振り手振りを使ったり、ICT機器を活用したりする等、実態に応じた支援を工夫する。	1-①③		
		(2)	生徒のニーズを把握し、保護者や学年、学部または関係機関と連携や情報の共有を行いながら指導・支援の充実に努める。	A	個別の指導計画で設定した支援内容を学習へ反映させたり、進路指導主事との連携や外部講師、地域の人材を積極的に活用して想定される進路に応じて学習内容を精選したりする。	1-①② 4-②		
	I			授業ごとの目標を略案等を活用し、授業ごとの生徒の個々のねらいを明確にしたり、授業の記録を行ったりすることで、次の授業に活かせるよう教員間で連携して評価・改善していく。	1-①②			

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	Ⅲ	(1)	健康の維持・増進に努め、生活のリズムや生活習慣の形成を図る。	ア 目視による健康観察や健康維持のための水分補給、検温、血中酸素飽和濃度や脈拍の測定等を行う。	2-②		
			イ 朝の会やトイレ・水分補給等、毎日の生活を規則正しく行い、生徒自身が生活リズムを意識できるようにする。	2-②			
			ウ 教師間の情報交換を密に行うとともに、家庭・医療機関においても連絡帳や連絡ノート等で連携を図り、個々の支援に活かすように努める。	1-② 2-② 4-④			
	(2)	豊かな心の育成を目指し、人やものとかかわりを通して興味関心の幅を広げ、感情や意思の表出と人やものに主体的にかかわる意欲の伸長を図る。	ア 生徒自らの主体性や意思の表出を図るため、人やものとかかわる時間を十分に設け、場の設定や教材教具の工夫、ICTの活用を図る。	1-②③			
			イ 読み聞かせを通して、興味・関心の幅を広げるとともに、生徒の感情や意思の表出を図る。	3-⑤			
			ウ 交流及び共同学習を計画的に行い、変化に対しても見通しをもって安心して取り組めるように生徒の実態に応じて適切な配慮、支援に努める。	2-② 3-①			
	(3)	感覚機能や運動機能を高め、A DLの維持・向上を図る。	ア マッサージ、ストレッチ、運動等を行い、身体機能の維持・向上に努める。	2-②			
			イ 感覚や身体に働きかけるように、五感を刺激する活動や運動、音楽的な活動などを取り入れる。	2-②			
	道徳	(1)	社会生活を送るうえで必要とされる道徳的な規範意識や豊かな心、他者とかかわる際のモラルスキルについて考え、自ら実践しようとする意欲と態度を養う。	ア 「高等学校道徳教育指導資料」を参考に各教科及び総合的な探求の時間と連携し、道徳的実践意欲と態度を養うための機会を増やす。	3-①③④		
イ 他の学年やグループと連携し、小集団でのコミュニケーション活動を設定することで他者の意見を受け入れ、互いに思いやる豊かな心の育成を図る。				3-①③④			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
特別活動	(1) 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	ア 児童生徒会、委員会活動など他学部の児童生徒との活動や運動会に向けての学年での話し合い活動を積極的に行えるように支援する。	1-①②		
	(2) 集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	ア 他校の生徒や地域の人々との交流活動の際には、障害特性や生徒個々の実態に応じて、活動内容や支援方法について工夫する。	1-② 3-①② 4-②		
	(3) 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。	ア 生徒の障害の状態や特性、生活経験の程度等を考慮し、進路指導や総合的な探求の時間との関連を図りながら指導内容を厳選する。	1-② 3-③		
自立活動	(1) 適切で根拠ある自立活動や日常生活における指導ができるように、関係機関との連携を図る。	ア 保護者との共通理解のもとに、連絡ノートを通じ医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換し目標設定や課題、指導内容の共有を図る。	1-①④		
		イ 必要に応じて自立活動相談、医療相談、小児リハネットワーク会議のケース会議、ソーシャルワーカーとの支援相談等を活用しつつ、関係機関との連携を図りながら指導の充実に努める。	2-② 4-③		
	(2) 肢体不自由特別支援学校の教職員としての専門性を高め、キャリア教育の視点に基づいた自立活動指導の充実に努める。	ア 医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)の助言のもとに、卒業後の生活を意識した自立活動メニューの作成・活用を促し、指導に生かす。	1-①④ 4-③		
		イ 外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を自立活動や日常生活における指導に生かし、卒業後の生活を意識しながら、自立活動の授業の改善・充実に努める。	1-①④ 2-② 4-③		

高等部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
総合的な学習(探究)の時間	(1) 将来の自立と社会参加を見越し、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てるとともに、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方や生き方を肯定的・発展的に考えることができるようにする。	ア 将来の自立につながる体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てる。また、主権者教育については生徒の実態に応じた内容の充実に努める。	1-②④		
		イ 交流及び共同学習や集団活動の場面で、まわりの人との意見交換や交流活動等、他者と協同して課題を解決しようとする活動や、まとめたり表現したりして自分の考えを深める活動を多く取り入れ、学び方やものの考え方を身につけられるようにする。	3-①④		
		ウ 様々な場面で、体験的活動や個人の活躍の場を多く取り入れることにより、互いの良さに気づいたり尊重したりする気持ちを育て、成就感や協同の楽しさを味わえるようにする。	3-①③		

訪問教育〔教科・領域〕

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
自立活動	(1) それぞれの障害の状態や発達段階を考慮しながら児童生徒の健康や体力の維持・増進に努め、自己の感情や意思を表現しようとする力を育てる。	ア 拘縮予防などのために、顔や手足のマッサージ、関節の曲げ伸ばしなどを、実態に応じて実施する。(必要に応じて外部専門家の意見を参考にする。)	1-①② 2-①②		
		イ 五感に働きかけるような教材教具の工夫をすることで、快・不快を含めた自分の意思を、表情や身体の動きで表出することができるように支援する。	1-①② 2-② 3-③⑤		